

第61回全日本実業団バドミントン選手権金沢大会出場割当

平成23年 2月 6日
日本実業団バドミントン連盟

[1] 出場割当数

地区 ブロック	支部名	H22年度 登録数	出場割当数		
			基本数	追加数	合計
北海道	北海道	21	1	3	4
東北 10 33	青森	未登録	1	0	1
	岩手	1	1	0	1
	宮城	24	1	3	4
	秋田	1	1	0	1
	山形	未登録	1	0	1
	福島	7	1	1	2
	関東 30 160	茨城	7	1	1
栃木		8	1	1	2
群馬		9	1	1	2
埼玉		14	1	2	3
千葉		8	1	1	2
東京		71	1	10	11
神奈川		43	1	6	7
山梨		未登録	1	0	1
北信越 10 43	新潟	8	1	1	2
	長野	1	1	0	1
	富山	14	1	2	3
	石川	13	1	1	2
	福井	7	1	1	2
東海 12 66	岐阜	3	1	0	1
	静岡	4	1	0	1
	愛知	37	1	5	6
	三重	22	1	3	4

地区 ブロック	支部名	H22年度 登録数	出場割当数		
			基本数	追加数	合計
近畿 18 93	滋賀	4	1	0	1
	京都	22	1	3	4
	大阪	46	1	6	7
	和歌山	未登録	1	0	1
	兵庫	21	1	3	4
	奈良	1	1	0	1
	中国 9 33	岡山	10	1	1
広島		14	1	2	3
山口		7	1	1	2
島根		1	1	0	1
鳥取		1	1	0	1
四国 6 19	愛媛	8	1	1	2
	香川	10	1	1	2
	徳島	1	1	0	1
	高知	未登録	1	0	1
九州 10 25	福岡	19	1	2	3
	大分	未登録	1	0	1
	長崎	2	1	0	1
	佐賀	未登録	1	0	1
	熊本	1	1	0	1
	宮崎	未登録	1	0	1
	鹿児島	1	1	0	1
沖縄	2	1	0	1	
総合計		494	47	62	109

(注1) H22年度登録数は、H23年 2月 4日現在

(注2) 出場割当数は、日本実業団バドミントン連盟規約細則による。

(注3) 男子と女子の割当数は、同数とする。

(注4) 各地区ブロックには、右の特別枠(男女共)を割り当てる。

(注5) 開催地ブロックは、特別割当数とする。

[2] 地区ブロック特別枠

北海道	2	東海	8	九州	2
東北	5	近畿	12	合計	63
関東	20	中国	4		
北信越	6	四国	4		

[2] 推薦チーム(61回大会)

【男子の部】

優勝	トナミ運輸(富山)
準優勝	NTT東日本(東京)
3位	JR北海道(北海道)
3位	日本ユニシス(東京)
ベスト8	東海興業(愛知)
ベスト8	セーレン(福井)
ベスト8	日立情報通信エンジニアリング(神奈川)
ベスト8	大阪トリッキー・バンダース(大阪)
ベスト16	四国ガスグループ(愛媛)
ベスト16	タダノ(香川)
ベスト16	富士通グループ会津若松(福島)
ベスト16	丸杉(岐阜)
ベスト16	ジェイテクト(愛知)
ベスト16	富山トヨタ自動車(富山)
ベスト16	ヨネックス(東京)
ベスト16	三菱自動車京都(京都)

【女子の部】

優勝	ルネサスSKY(熊本)
準優勝	日本ユニシス(東京)
3位	ヨネックス(東京)
3位	三洋電機(大阪)
ベスト8	岐阜トリッキー・バンダース(岐阜)
ベスト8	北都銀行(秋田)
ベスト8	広島ガス(広島)
ベスト8	NTT東日本(東京)